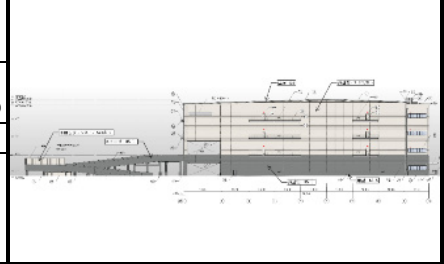


CASBEE®-建築(新築) 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_通称版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	川西市久代一丁目物流施設 新築工	階数	地上4F
建設地	兵庫県川西市久代1丁目39番地	構造	S造
用途地域	準工業地域、工業地域	平均居住人員	200 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年6月 予定	評価の実施日	2024年9月6日
敷地面積	15,063 m ²	作成者	丸山 翔
建築面積	8,960 m ²	確認日	
延床面積	32,044 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE = 1.4 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★ 環境負荷 L (0-100) vs 環境品質 G (0-100) BEEチャート上の位置: 1.4 (赤い点) 環境負荷 L: 35, 環境品質 G: 50	標準計算 30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆ 100%超: ☆☆☆☆ ①参照値: 100% ②建築物の取組み: 79% ③上記+②以外の: 79% ④上記+: 79% このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO ₂ 排出量の目安で示したものです。 (kg-CO ₂ /年・m ²)	Q2 サービス性能 Q1 室内環境: 2 Q2 サービス性能: 4 Q3 室外環境(敷地内): 2 LR1 エネルギー: 2 LR2 資源・マテリアル: 2 LR3 敷地外環境: 2

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質 Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.0 音環境: 2.6, 温熱環境: 3.0, 光・視環境: 3.3, 空気質環境: 3.0	Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.5 機能性: 3.3, 耐用性: 3.1, 対応性: 4.2	Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.5 生物環境: 2.0, まちなみ: 3.0, 地域性: 2.5
LR 環境負荷低減性 LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.9 建物外皮の: 5.0, 自然エネ: 3.0, 設備システ: 4.0, 効率的: 3.0	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.5 水資源: 3.4, 非再生材料の: 3.5, 汚染物質: 3.7	LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.2 地球温暖化: 3.8, 地域環境: 3.0, 周辺環境: 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合 これは、CASBEE-BD_NC_2021ver.2.3.2による評価である。		その他 特になし
Q1 室内環境 事務所の昼光率を2.14とし、光環境に配慮した。	Q2 サービス性能 ・床面積が執務スペースの2%の自販機スペースを設置。 ・外壁および空調・給排水配管において、耐用年数の長い材料を採用した。	Q3 室外環境(敷地内) 市の景観形成に配慮し、敷地外周部に十分な面積の芝および十分な本数の高木の植栽を計画した。
LR1 エネルギー ・BPI=0.75になるよう、十分な断熱を施した。 ・BEL=0.50になるよう、設備設計には十分な配慮をした。	LR2 資源・マテリアル ・過半の手洗いに自動水栓、便器は節水型のものを採用し、節水に努めた。 ・床材に特定調達品目・エコマーク商品を採用した。	LR3 敷地外環境 夏季の卓越風向に対し、見付面積比約63、隣等間隔指数0.47を記録し、敷地を通った風が回復しやすいよう配慮した。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される